

平成 29 年 10 月 13 日

北海道サッカー協会 審判委員会 各位

北海道レフェリーアカデミー第 8 回 議事録

報告者：須摩 和樹（小樽）

<日 時> 平成 29 年 10 月 8 日（日）、10 月 9 日（月）

<場 所> 室蘭市入江競技場、室蘭市文化センター、室蘭清水丘高校

<参加者>

北海道アカデミーマスター：山崎 裕彦 氏

インストラクター：三上 正一郎 氏

森 英樹 氏 阿部 義秀 氏 山下 浩司 氏

今川 一輔 氏 村山 尚哉 氏

審判員：堀 悠雅、板矢 智志、須摩 和樹

オブザーバー：長山 大雅氏

10 月 8 日（日）

9：00 集合：室蘭入江競技場

10：30 平成 29 年度 第 15 回北海道サッカーリーグ ブロックリーグ決勝大会

BIG サッカークラブ-新得フットボールクラブ

(R：須摩 和樹 A1：板矢 智志 A2：中川 二郎 4th：戸井 建)

13：00 平成 29 年度 第 15 回北海道サッカーリーグ ブロックリーグ決勝大会

VERDELAZZO 旭川-北海道藻友クラブ

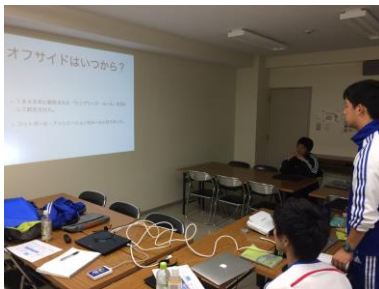
(R：堀 悠雅 A1：高橋 健太 A2：佐藤 諒 4th：戸井 建)

14：30 移動（室蘭文化センターへ）

15：55 競技規則[severity] 山崎 RDO

FIFA の教材を用いて A~L までの 12 個の映像を見て No foul、Care less、Rack lees、Using excessive foul に映像を分けた。

16：45 審判員プレゼン



堀：オフサイドの歴史・誕生について。得点を取ることを今まで以上に難しくするためにオフサイドが誕生したと言われ、それぞれのパブリックスクールによってオフサイドが発展されたと言われている。1886 年にボールより前に選手は、前にいてはならないと規定された。オフサイドの考えの根本は、サッカーを楽しむために考え出された。

板矢：前回行われた第 7 回アカデミーの映像を用いてオフサイドなのかファウルなのかオフサイドポジションにいる競技者がファウルをされた際にどのように再開するのかを共有しました。その後アシスタントレフェリーを行なっていて困ることについてどのような動きや視野の置きどころが正しいのかをディスカッションをし正しい判断をするには、選手に対応していきながら細かなステップを使っていくことで正しい判定につながるとなった。

須摩：オフサイドの歴史について。1848 年にケンブリッジルールを元に制定されたと言われている。その後フットボールアソシエーション式ルールとなり Laws of the Game（競技規則）となり第 6 条となり規定化された 1886 年には 3 人制オフサイド、1924 年には 2 人制オフサイドが制定されたと言われている。現在の競技規則書かれている第 11 条オフサイドの元になっているのは 2 人制オフサイドからきている。

18：00 Videoclip [offside] 山崎 RDO

オフサイドは第何条なのか、どのような行為をした際に罰せられるのか、また競技規則に



記載されているオフサイドの反則について整理・（「ボールが味方競技者によってプレーされたか触れられた瞬間にオフサイドポジションにいる競技者は、次のいずれかによってその時のプレーにかかわっている場合のみに罰せられる」という文言のその時とはどのような時か整理した）確認したのちにオフサイドなのかオンサイドなのかの見極めテストを行った。Videoclipで12種類の映像を一つ一つアシスタントレフェリーはどのようなことを感じ取らなければならないのかレフェリーはどのようなことを感じ取らなければいけないかの確認をした。オフサイドは試合の結果に繋がってしまいますので重要である。

19:00 試合分析 (BIG サッカーラブ-新得フットボールクラブ)

R 自己分析→動きを意識して行った。トップの競技者の動きを常に意識しながらポジショニングを取りました。ゴールキーパーや最終ラインの競技者がロングボールを縦に入れた際に予測をして遅れることなく争点へ行けたと思います。際どい判定のところではアシスタントレフェリーとアイコンタクトを取れたと思います。ですが前半の段階で警告を出すことができずに試合全体を通して警告の部分での判定基準がバラバラになってしまい出すべきところで出すことができませんでした。事象が起きてから冷静でいることができなかったと思います。他にもFKのマネジメントを改善していかなければならないと感じました。

INS 分析→反則が起き、その後のフリーキックの際の守備側競技者の壁をコントロールする際にどれだけスマートに行うことができるのか、そのポジションでどんなことを見たいのか目的を持ちポジションにつくこと。フリーキックの再開までをどれだけスムーズに行うことができるのか。警告を出すことができなかったのは、一つのことには気がいってしまい全体を把握していなかったためにカードが出せなかった。出るような事象に対してもっと感じなければならないことと、いかに冷静でいることができるのかが重要である。慌ててしまって自分が判定したことが飛んでしまうのはまだ競技規則の理解が足りていないということである。

(VERDELAZZO 旭川-北海道藻友クラブ)



R 自己分析→特にマンマネジメントを適切に行うことを目的としたが、異議に対する注意なのかファウルに対する注意なのかが明確に区別できず（迷ってしまった）、効果的な注意を行うことができなかった。ポジショニングに関しても、周りの競技者が見えていないことが多いことが原因で修正が遅れ

てしまい、展開が遅れてしまうことや競技者の邪魔になってしまうことがあった。INS 分析→マネジメントが課題であるならば何のためにマネジメントを行うか整理した方が良い。ポジショニングに関してもいつ何を見るかがまだよくない。そのため動き出しが遅くなっている。DFにとって何をされたくないか、FWは何をしたいのか、DFの裏やゴール前の動き出しを整理していくべき。ただ、試合全体を通しては悪くなかった20:00 <1日目終了>

2日目

9:00 集合 (室蘭清水丘高校)

9:30 プラクティカルトレーニング



『ポジショニング』 阿部 INS

争点に対してどのようなポジショニングを取り次の展開を予測して走り込んでその際にレフェリーサイドに振られた際にアシスタントを見えているか、選手がボールに触れていてオフサイドが成立するかなどといったシチュエーションが起こりその事象に対して、瞬時に判断をすることができるのか、どれだけ広い視野でアシスタントまで見ることができるポジショニングを取ることができるのか。

『ペナルティーエリア付近のFK』 山下 INS

ペナルティーエリア付近でのフリーキックの再開方法は、選手がクイックスタートを妨害するシチュエーションありそのシチュエーションに応じてクイックを認める場面、壁を作る際に選手がボールを動かしポイントを変えてしまうのでどのように副審と協力をして監視をすれば良いのか主審もどのように監視をして再開までの段階を踏みながらスムーズにプレーを再開させるまでを考えて行なった。

10:45 移動

11:15 振り返り

11:50 マッチミーティング

13:00 平成 29 年度 第 15 回北海道サッカーリーグ ブロックリーグ決勝大会

函館市役所サッカー部-VERDELAZZO 旭川

(R: 板矢 智志 A1: 須摩 和樹

A2: 堀 悠雅 4th: 戸井 建)



14:30 着替え

15:00 試合分析 (函館市役所-VERDELAZZO 旭川)

R 自己分析→選手への伝え方とポジショニングを課題に臨んだ。伝え方という点で、前回の試合映像で確認できた「なんとなく」さが無いように、笛や寄り方等にメリハリをつけた。A2の判定に不服な態度を示したときの対応の後は、両チームがレフェリーの判定を尊重していただけたので、効果的だったのではないかと感じる。意図的に動き出せた時は、適切なポジショニングにすることが多かったため、余力を持って判定することができたが、予期せぬダイレクトプレー等で遅れることも多々あったため、受け手の動きをもっと見れる視野の確保が求められる。

INS 分析→選手に対応しなければならない所は対応に行き、選手に伝わっていた点は良かった。しかし、客観的に見ると選手についていっているようにも見え、印象があまり良くない。1対1で伝わり、客観的に見たときの印象も良くなるような方法を改善すべき。ショートパスが続いたときに、選手の邪魔にならぬようにすることに必死になっているときは受け手の動きが見えておらず、ダイレクトで大きくキックされたときに素早い対応ができていない。パスでつなぐチームのときのポジショニングの取り方の引き出しを増やしていくことが必要である。



る。

16:00 振り返り・諸連絡・解散 山崎 HKFARAC マスター